

発見! 熊野町の「工工」ところ。 シリーズ 第18回

全国各地にある名所や名物。もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。

「バランス・ストーン」～ vol. 2 シリーズ石造物 ～

「トンネルを抜けると、バランス・ストーンに出会った!」熊野に帰るトンネルを抜けると迎えてくれる、ユニークな形をした大きな石造をご存知ですか? 石造シリーズ2回目は、モニュメント、「バランス・ストーン」。工工ところ、再発見! !

早いもので、熊野トンネルが開通して約20年。「バランス・ストーン」は、1990年熊野トンネル開通の際に設置された。三角の山形をした巨石の上に、四角い長方体を乗せ、てっぺん右より丸い玉を置いたこの現代アートは、その名のとおり、3つの石がうまくバランスを保っているようである。



▲バランス・ストーンと作家・山口牧生さん (左)

作家は、兵庫県西宮市の山口牧生さん。バランス・ストーンは、大阪

府の北部に位置する町、能勢産の黒御影石を用いて作成されている。その黒くて硬い石の表面に、ノミで条痕を刻み、ベンガラで色をつけた作品である。その他にも、四角い石と丸い石が印象的な彼の作品は、近くでは広島現代美術館の庭でも目にすることができている。



▲ノミで条痕を刻み、ベンガラで色をつけた表面

た新宮の菅田賢宏さん(68歳)宅をお訪ねしてお話を伺った。

聞けば、山口牧生さんは広島県ご出身。1927年に紙屋町でお生まれになられたそう。さらに驚いたことに、町がモニュメントを作成していただくことを山口牧生さんをお願いしたとき、「作る前に、これから熊野町をどのようにしたいか、ぜひ!!町の若い方々のお話をお聞きしたい」とのご希望で、筆の里くまの21というまちづくりのグループ

を立ち上げて、山口牧生さんを囲んでお話をしたという。その中で、熊野町民のまちへの思いを山口さんを感じとってもらい、それを表現されたそう。そうそう、熊野の美味しいお酒を飲みながら、こんなエピソードも: 大號令をお飲みになられたとき「こんなおいしいお酒は飲んだことがない」と言われたそうである。



▲銘板

トは…… そうして出来上がったモニュメントは……

丸い玉は熊野町の人の心「魂」を、四角い石は人が作り出す「文化」を、山形の巨石は熊野の「自然」を表現し、これらが調和した町でありたいという思いが込められ、「バランス・ストーン」と名づけられた。さて、い

かがでしたか? 作者が表現しようとする意味がわかると、また作品を違った面持ちで見ることができるともいけません。明日からも、熊野へ帰るトンネルを抜けると、そこに「バランス・ストーン」が迎えてくれますよ。

取材 伊藤真由美